

一同二日、李部より飯集使にて、八朔の太刀持來候、又去月廿八日書狀にて、李部へ申御尋の物之事、先此方より可被尋候、萬一とかく申上候一段と可被仰付候ほどに、無事に事行候様に可申具に申上候御祝著のよし被仰出候、然間李部へ申候趣は、然ば公儀の分に可申付候、その御返事によりて、やがて可申遣由申候て、其左右を相待申候也。

〔天館常興日記〕天文七年九月二日、一越前朝倉方へ公方様より八朔進物爲御返御太刀一腰持被下之由承及也、進物は御太刀御練貫三重代千御馬一疋代五進上之云々、仍御返御太刀の外、今一種被出候哉之由不審申候へば、去年御馬を相副候處、只御太刀計にて御ざ候由、彼雜掌申て、御馬をば不請取申候、先々此分にて御座候由申けると云々、さては勢州被申次候時、其分にて候けると存候也。

〔親俊日記〕天文八年八朔 八月丙寅

一 貴殿御出仕 疊面十枚、俵十進上之、

一 禁裏様○後奈良○足利より御太刀一腰、御馬一疋、何毛にて、毛付ハ鶴、毛被遊候由、傳奏被仰云々、若公様

○義 輝 同前、

一 御靈別當一荷兩種、貴殿へ進上之、御見參にて御蓋參之、□□□□到來之、

一 野洲井兩種一荷、貴殿へ進上之、同私へ、

一 大森二郎三郎十疋、高倉與五郎十疋、小島子十疋、並木十疋到來之、

一 樂阿、巽阿、冬阿、才阿、薰阿、何も扇到來、面一枚ヅ、遣之、○下

〔言經卿記〕慶長十年八月一日癸卯、殿中條○二城へ御禮ニ各被參了、御太刀大中納言ハ、總別申次披露、

今日宰相衆ハ持參也、トイヘドモ、將軍○德川秀忠 御辭退也、申次披露スベキ由也、殿上人ハ持參也、參

仕衆、大炊御門亞相、鳥丸亞相、日野前亞相、花山院亞相、六條相公、鳥丸右大弁、廣橋左中弁、花山院少